

岡山県感染症週報 2018年 第46週 (11月12日～11月18日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

12月1日は『世界エイズデー』です。

◆2018年 第46週 (11/12～11/18) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第45週	4類感染症	レジオネラ症 1名 (50代 男)
	5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (40代 女)
		梅毒 1名 (50代 男)
		百日咳 3名 (中学生 女 1名、30代 女 2名)
第46週	2類感染症	結核 7名 (20代 男 1名・女 1名、70代 女 1名、80代 男 1名、90代 女 3名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O20:20代 男)
	5類感染症	梅毒 1名 (30代 男)
		百日咳 2名 (小学生 男 2名)
		風しん 1名 (40代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で116名(定点あたり2.07→2.15人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 流行性角結膜炎は、県全体で17名(定点あたり1.50→1.42人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第47週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157:幼児 男)の発生がありました。(11月22日)
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました。(11月20日～22日)

1. **12月1日は『世界エイズデー』です。**岡山県では『世界エイズデー(12月1日)』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動および保健所・支所で夜間・休日等の HIV 抗体検査を実施します。詳しくは「**今週の注目感染症①**」をご覧ください。
2. **風しん**は、第46週までで16名の報告がありました。風しんは、妊婦がり患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、注意が必要です。また、成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。全国の発生状況など詳しくは、「**今週の注目感染症②**」をご覧ください。
3. **梅毒**は、第46週までで145名の報告がありました。梅毒患者の報告数が急増した昨年の同時期(156名)と同程度の多くの患者が報告されています。中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代および20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。また、全国では先天梅毒の報告が相次いでいます(第45週までで昨年5名、今年16名)。梅毒の詳細は、**コラム**をご覧ください。
4. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第46週に1名の報告があり、2018年第46週までの累計報告数は67名となっています。今後も発生がつづく可能性があることから、岡山県は「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
5. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で116名(定点あたり2.07→2.15人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去10年間の同時期と比較して、最も多くなっています。地域別では、備前地域(3.40人)、岡山市(2.79人)、倉敷市(2.64人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。
6. **流行性角結膜炎**は、県全体で17名(定点あたり1.50→1.42人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備前地域(4.00人)、倉敷市(2.50人)で定点あたりの報告数が多くなっています。この感染症は、アデノウイルスによる眼の感染症で、8～14日の潜伏期間の後、まぶたの浮腫、結膜の充血、眼脂(目やに)、流涙、眼痛などの症状を呈します。有効な薬剤はなく、対症療法による治療が行なわれます。このウイルスは、感染力が強く、人と接触する機会の多い家庭や職場、病院などで流行します。感染した際には、眼を触らないよう気を付け、触ったら石鹸と流水で

よく手を洗う、タオルや洗面器などの共用は避ける、家庭内での入浴は最後にするなど感染拡大防止に努めてください。

7. **インフルエンザ**は、県全体で19名（定点あたり 0.30 → 0.23 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。

県内の発生状況など、詳しくは「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2018 / 2019 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★★	RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★★★
感染性胃腸炎	➡	★★★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↗：増加 ➡：ほぼ増減なし ↘：減少 ↓：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

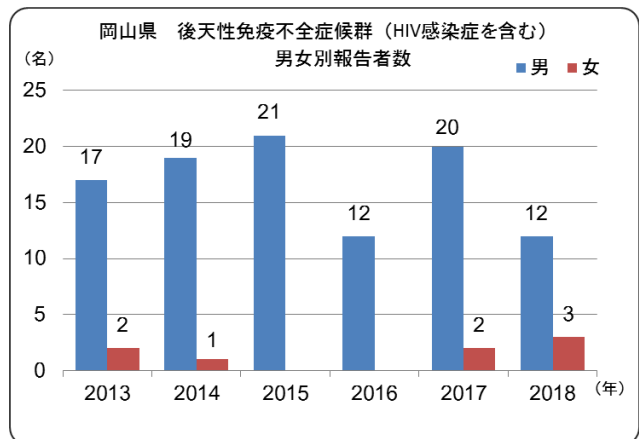
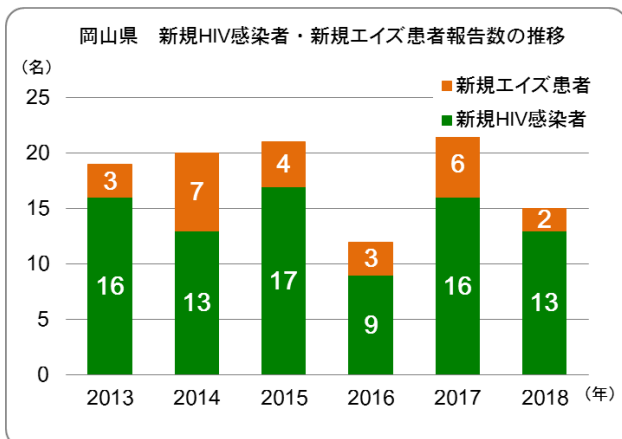
発生状況：今週の流行状況を過去5年間で比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症①

★後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）

【岡山県の発生状況】

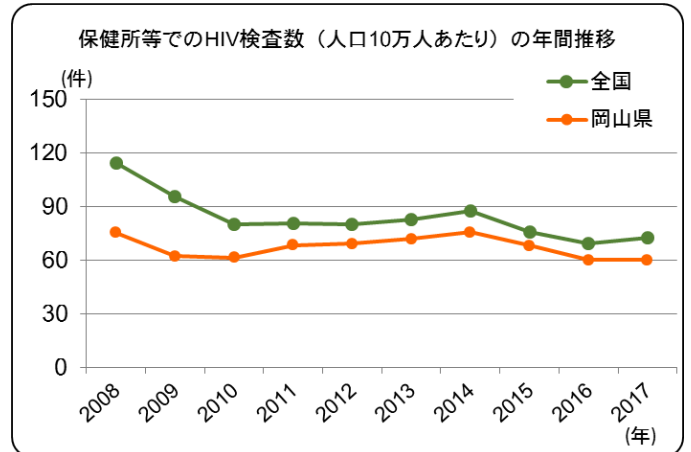
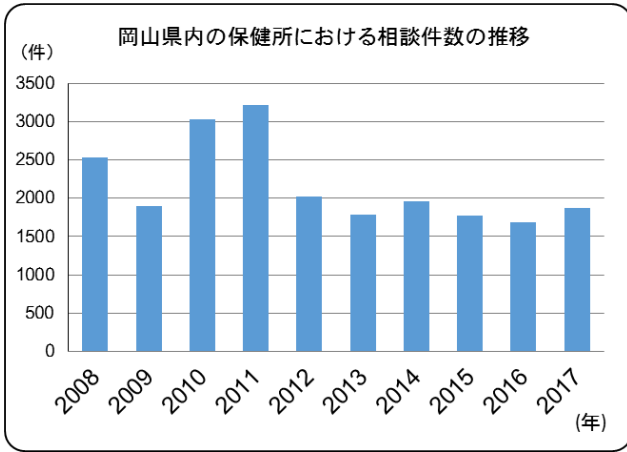
2018年46週（～11/18）までに報告されたHIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者は13名、エイズ患者は2名で、両者合わせた新規報告数は15名となっています（2017年46週までの両者合わせた新規報告数は17名（HIV12名、エイズ5名））。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成29(2017)年エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から2018年のデータを追加して作成

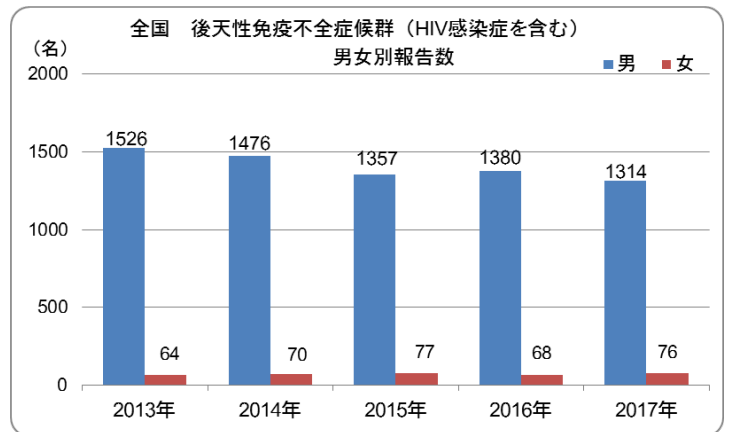
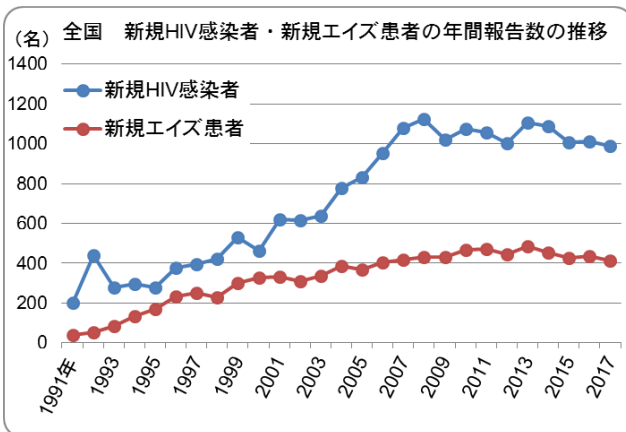
【岡山県内におけるHIV抗体検査・相談件数】

岡山県内の保健所等における相談件数は、2011年をピークに減少し、2012年以降ほぼ横ばいで推移しています。また保健所および拠点病院でのHIV検査数（人口10万人あたり）は、2010年以降ほぼ横ばい状態であり、全国の保健所等でのHIV検査数（人口10万人あたり）と比較して少なくなっています。

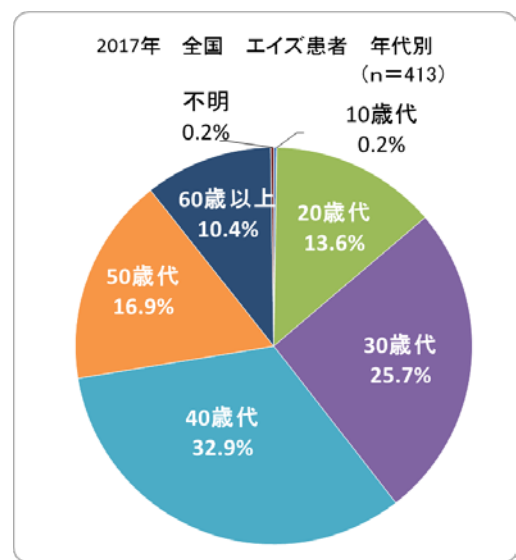
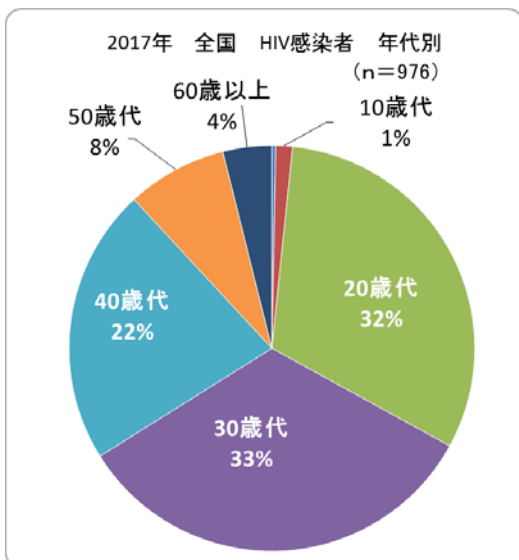


【全国の発生状況】

2017年エイズ発生動向年報によると、HIV感染者の新規報告数は976名（前年1,011名）でした。2007年以降ほぼ横ばいで推移しており、年間1,000名程度の報告数となっています。エイズ患者の新規報告数は、413名（前年437名）と、2006年以降年間400名以上に上っており、2010年から横ばい状態が続いています。2017年のHIV感染者とエイズ患者の新規報告感染者の合計数は2016年より減少し、11年ぶりに1,400人を下回りました。HIV感染者およびエイズ患者ともに、日本国籍男性が報告数の大半を占めています。都道府県別でみると、2017年HIV感染者報告数（人口10万人あたり）は、東京都（2.64）、沖縄県（1.59）、大阪府（1.41）の順で多くなっています。また、エイズ患者報告数（人口10万人あたり）は、東京都（0.71）、大阪府（0.57）、沖縄県（0.55）の順で多くなっています。

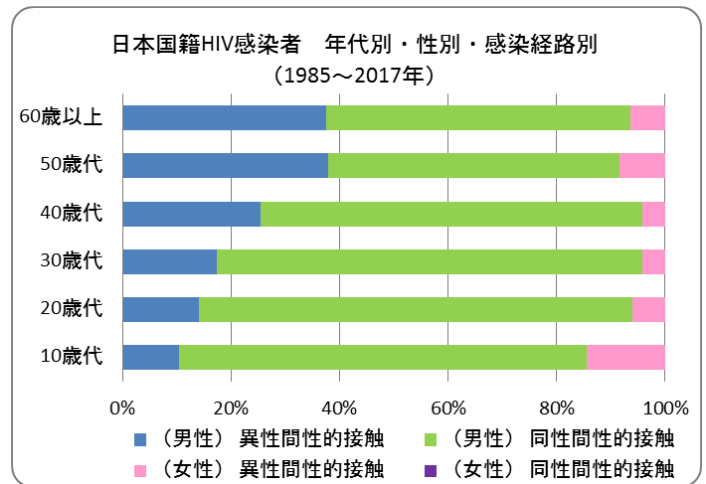


厚生労働省エイズ動向委員会 平成29(2017)年 エイズ発生動向データより作成



厚生労働省エイズ動向委員会 平成29(2017)年 エイズ発生動向データより作成

年代別では、HIV 感染者は 20～40 歳代で多くなっています。またエイズ患者は、20 歳以上の各年代に分散していますが、特に 40 歳代で多くなっており、HIV 感染者よりも年代が高くなっています。HIV 感染者の年代別感染経路では、男性はいずれの年齢においても同性間性的接触の割合が最も高く、年齢が上がるにつれて異性間性的接触の割合が高くなる傾向がみられます。なお HIV 感染者、エイズ患者ともに、静注薬物使用や母子感染によるものはいずれも 1% 未満にとどまっています。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 29(2017)年 エイズ発生動向データより作成

【後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）とは】

エイズは、HIV に感染することによっておこる病気ですが、HIV 感染＝エイズということではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると、免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。免疫が低下することで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、エイズ発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬があり、きちんと服薬することでエイズ発症を予防することが可能になっています。

【感染経路および感染の確認方法】

HIV の主な感染経路は、次の 3 つです。

(1) 性行為による感染

HIV は感染者の血液や精液、膣分泌液から、その性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口から体内に入ることによって感染します。

(2) 血液を介しての感染

麻薬等の依存性薬物の回し打ちによる注射器具の共用などによって感染します。なお、血液凝固因子製剤については、加熱処理が行われているため、感染の心配はありません。

(3) 母親から赤ちゃんへの母子感染

母親が HIV に感染している場合、妊娠中や出産時、また母乳から感染することがあります。母親が HIV 感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで、赤ちゃんへの感染を 1% 以下に抑えることができます。

HIV 感染の確認方法

HIV に感染すると、通常 6～8 週間経過して、血液中に HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、この症状からは HIV に感染しているかどうかを確認することはできません。HIV 検査を受けることで、はじめて感染の有無を確認することができます。

【予防方法】

不特定多数との性行為を避けるなど、感染のリスクを下げる配慮が必要です。また、性行為において正しくコンドームを使用することは、HIV 感染／エイズ予防にとって有効な手段です。HIV の感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。

[・エイズ Q&A \(エイズ予防情報ネット\)](#)

2018年12月1日 世界エイズデー

『UPDATE! エイズ治療のこと HIV検査のこと』



レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

・[API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ](#)

厚生労働省エイズ動向委員会のまとめによると、2017年までに報告されたHIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者数と後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）患者数の累積報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は、28,000件を超えました。地域的、年齢的にもひろがりを見せており、依然として予断を許さない状況にあります。

HIV感染者 …… 感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

エイズ患者 …… 受診時、すでにエイズを発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、AIDS患者として報告されたもの（*いきなりエイズ）。

（既にHIV感染者と報告されている症例がエイズを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。）

※「いきなりエイズ」とは、エイズ発症によって初めてHIVに感染したことが判明することです。

HIV感染の治療の遅れとともに予期せぬ感染のひろがりにつながる可能性もあり、対策が必要です。

12月1日の世界エイズデーにあわせて、 岡山県内の保健所・支所では、検査日時を拡大して検査を実施します。

[平成30年度保健所における「世界エイズデー」関連夜間・休日等検査 日程一覧](#)

○岡山県では、平成25年度から全県を挙げて、HIV感染防止と「いきなりエイズ」防止のため、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を3つの柱とした「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。

[おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県健康推進課ホームページ）](#)

○岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所の

エイズ検査（一部、梅毒等も含む）・性感染症相談はこちらから

[岡山県保健所・支所](#) [岡山市保健所](#) [倉敷市保健所](#)

○エイズ治療拠点病院のHIV検査（電話相談は行っていません）は[こちらから](#)

HIV検査について

HIVに感染しているかどうかは、HIV検査を受けないとわかりません。HIVに感染してからエイズ発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期がづくため、気づかないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。HIVは、たとえ感染しても早期に発見すれば服薬等をつづけることで、エイズの発症を防ぐことができます。早期発見・早期治療がエイズ発症防止やHIV感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律1,000円・即日検査）などでのHIV検査を積極的に利用することが望まれます。もしHIV検査で感染していることがわかった場合でも、県内10か所の拠点病院で専門的に治療を受けることができます。

岡山県内での HIV 検査

	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
保健所	抗体検査	岡山市・倉敷市・備前・美作保健所 即日 (約1 時間後)	感染が疑われる機会があつてから 3 か月経過後	無料	必要	匿名 性感染症（梅毒等）検査も同時に受けられる
		その他の保健所・支所 1 週間後				
拠点病院	抗原抗体検査	即日 (1~2 時間後)	感染が疑われる機会があつてから 8 週間目以降	1,000 円	必要	匿名不可

重要！

HIV 等、性感染症の検査目的での献血は、絶対に行わないでください！

HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果 HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。

HIV 等、性感染症の検査は、保健所および医療機関などで受けてください。

今週の注目感染症②

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦がり患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

感染から 14~21 日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15~30% 程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

風しんは、全国に感染が拡大しつつあります（第 45 週まで：2,032 名、第 46 週まで（速報値）：2,186 名。直近 3 年間では年間 93~163 名）。中国・四国地方では、第 46 週まで（速報値）で広島県：23 名、岡山県：16 名、山口県：11 名、香川県：6 名などが報告されています。

また、この度報告数が増加した風しん患者は、男性が女性の 4.4 倍と多くを占めており、中でも特に抗体価が低いとされる、30 代~40 代の男性が中心となっています（男性患者全体の約 6 割）。

●先天性風しん症候群とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が 3 大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。

●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。

予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「風しんの予防について」



©岡山県「ももっち・うらっち」

風しんの予防について

岡山県で風しん患者が発生しています！

●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。

なお、妊娠中の女性は予防接種を受けることができないため、特に流行地域においては、抗体を持たない、または抗体価の低い妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えましょう。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。

検査の詳細は、下記のホームページ

[風しんの無料抗体検査が受けられます\(岡山県健康推進課\)](#)

[風しんの無料抗体検査\(岡山市\)](#)

[風しん抗体検査について\(倉敷市\)](#)

をご覧ください。

生まれてくる赤ちゃんのために
風しん抗体検査を受けましょう

無料で実施しています。

妊婦健診の妊婦さんが風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに影響することがあります。風しんは予防接種で予防できます。

無料抗体検査対象者で、罹患歴又は予防接種歴が明らかでない方は、予防接種が必要かどうかを調べるため、抗体検査を受けましょう。
特に昭和37年度～平成元年生まれの男性と昭和34年度～平成元年生まれの女性は、十分な免疫がないことが多いとされています。

無料抗体検査対象者

岡山県内に居住し、次のいずれかに該当する方
(1) 妊婦を希望する女性とその同居者
(2) 風しんの抗体価が低い妊婦の同居者

※検査対象者、妊婦さんには検査を受けることがありません。あなたが風しんの感染を心配される方は、検査で確定診断を受けた風しんのり患者の方であれば受けられます。

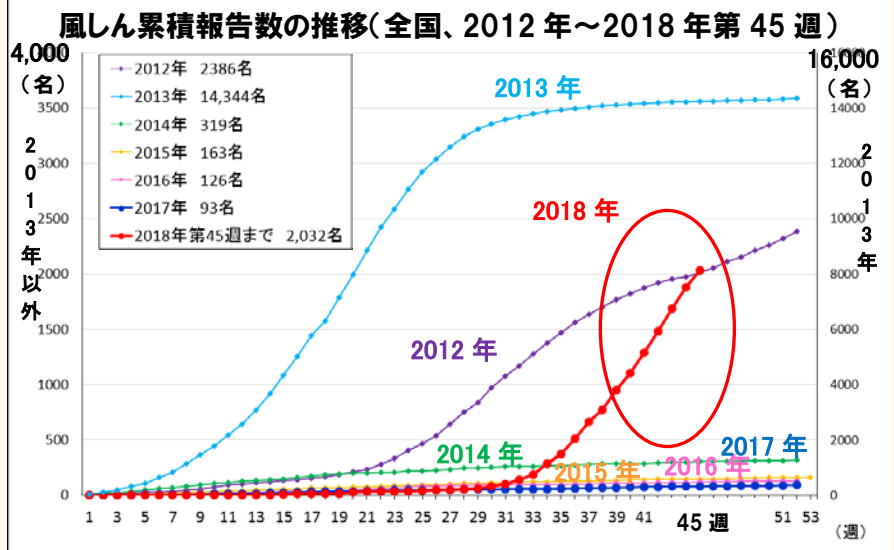
検査するところ

① 妊婦さんが多発する施設(健康保険部、産科免許施設など)
② 「風しん抗体価が低い妊婦の同居者」は、妊婦の風しん抗体価が確認できる産科(産科検診受診施設、産科検診受診記録など)
※検査できる医療機関については、県ホームページ「妊娠・出産」から検索することができます。

岡山市・倉敷市以外にお住まいの方 風しんの無料抗体検査 岡山県 無料
岡山市にお住まいの方 風しんの無料抗体検査 岡山市 無料
倉敷市にお住まいの方 風しんの無料抗体検査 倉敷市 無料

※検査料は、検査料の無い妊婦さん施設内は、予約を受け付けることを申し込んでください。予約無しでも検査を受けることができます。県ホームページ「妊娠・出産」から検索することができます。風しん抗体検査を受けるには、検査料を支払う必要はありません。検査料を支払う必要はありません。

岡山県保健福祉部健康推進課 086-226-7331



詳細は・・・

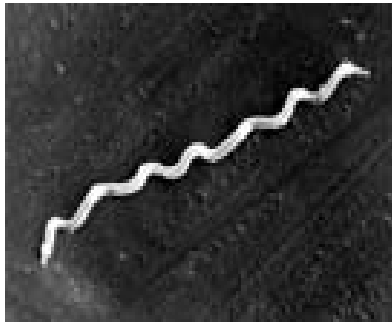
(国立感染症研究所ホームページより)

[風疹急増に関する緊急情報\(2018\)\(国立感染症研究所\)](#)

[風疹とは\(国立感染症研究所\)](#)

[風しんについて\(厚生労働省\)](#)

生まれてくる赤ちゃんのために
風しん抗体検査を受けましょう
(岡山県健康推進課)



依然として増えている・・・

梅毒（性感染症）に 気をつけましょう！

梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真
(国立感染症研究所 HP より)

●岡山県で梅毒の患者が急増しています

昨年、岡山県では梅毒患者の報告数が急増しましたが、今年も同様に多くの患者が報告されています（第46週まで：昨年156名⇒今年145名）。

中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代・20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です（第46週まで：昨年患者全体の15.4%⇒今年21.4%）。

岡山県は全国的にも届出が多く、2018年7月から9月でみると、人口100万人あたりの届出が、東京都、大阪府に次ぎ全国3位（2018年4月から6月と同様）となっています。全国的にも患者は近年増加傾向を示しており、若年者を中心としたまん延が懸念されています（第45週まで：昨年5,044名⇒今年5,955名）。

●「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたします（早期顕症梅毒）。一方症状の見られない時期もあり（無症候）、多様な症状を示すのが特徴です。進行により心血管系や、脳・脊髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障がいをもたらします（晩期顕症梅毒）。また妊婦の感染では胎児に様々な障がいをきたします（先天梅毒）。

●男女とも早期で見つかることが多いですが、女性では無症候も多くみられます！

また、全国では先天梅毒の発生報告が相次いでいます！

（第45週まで：昨年5名⇒今年16名）

●梅毒以外にも注意すべき性感染症はあります

性行為を通じ感染する感染症は梅毒以外にも、例えばHIV、クラミジア、ヘルペス、淋病など多くあります。これらの感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

岡山県の保健所・支所では梅毒等の性感染症検査を無料・匿名で受けることができます！

*岡山県の保健所（岡山市・倉敷市を除く）では、梅毒以外にもHIV・性器クラミジア・B型肝炎・C型肝炎の検査も同時に受けることができます。

*検査は無料・匿名で受けることができます。

*通常検査では1週間後、迅速検査では1時間後に結果をお知らせしています。

*確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3か月たって検査することをおすすめします。

*事前に電話で予約が必要です（保健所によっては予約不要の日時もあります）。

○県内11か所の保健所・支所における性感染症等検査の日時、予約方法はこちらから

→ [【平成30年度 保健所におけるHIV検査・性感染症検査・肝炎検査日時】](#)

[日本の梅毒症例の動向について（国立感染症研究所）](#)

[ストップ！梅毒（日本性感染症学会）](#)

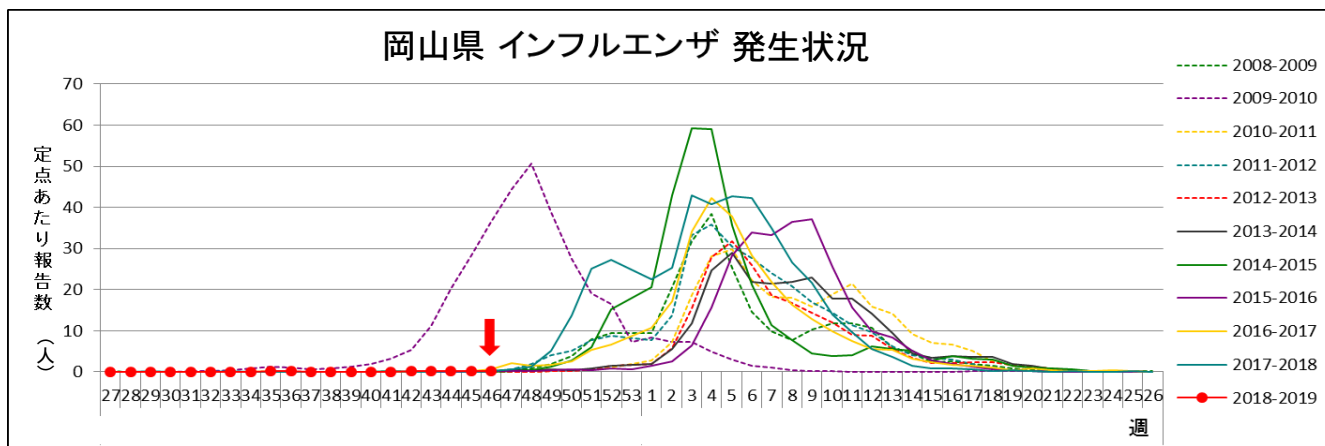
インフルエンザ週報 2018年 第46週 (11月12日～11月18日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で19名（定点あたり0.23人）の報告がありました（84 定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が2施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第47週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました。（11月20日～22日）



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、岡山市で12名、倉敷市で7名などの報告があり、県全体では19名（定点あたり報告数0.23人）の発生となっています。

全国の第45週（11/5～11/11）の発生状況は、定点あたり報告数が0.35人であり、今シーズンに入ってから徐々に増加しています。都道府県別では、三重県（1.43人）、沖縄県（1.36人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、流行開始の目安（定点あたり1.0人）を超える都道府県は、2県となっています。また、34の都府県で定点あたり報告数が前週よりも増加しています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常12月に入ってからといわれますが、岡山県では第39週に今シーズン初めての学校等の臨時休業が報告されており、全国でも、すでに第36週からインフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が報告されています。帰宅後は手洗いを励行し、感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2018 年第45週 \(国立感染症研究所\)](#)

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

[インフルエンザ 関連情報 2018/2019 シーズン インフルエンザワクチン株 \(国立感染症研究所\)](#)

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	19	↘	備 中	患者数	0	↓
	定点あたり	0.23			定点あたり	0.00	
岡山市	患者数	12	↗	備 北	患者数	0	→
	定点あたり	0.55			定点あたり	0.00	
倉敷市	患者数	7	↘	真 庭	患者数	0	→
	定点あたり	0.44			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	0	→	美 作	患者数	0	→
	定点あたり	0.00			定点あたり	0.00	

【記号の説明】 前週からの推移
 ↑ : 大幅な増加 ↗ : 増加 → : ほぼ増減なし ↓ : 大幅な減少 ↘ : 減少
 大幅 : 前週比 100%以上の増減 増加・減少 : 前週比 10～100%未満の増減

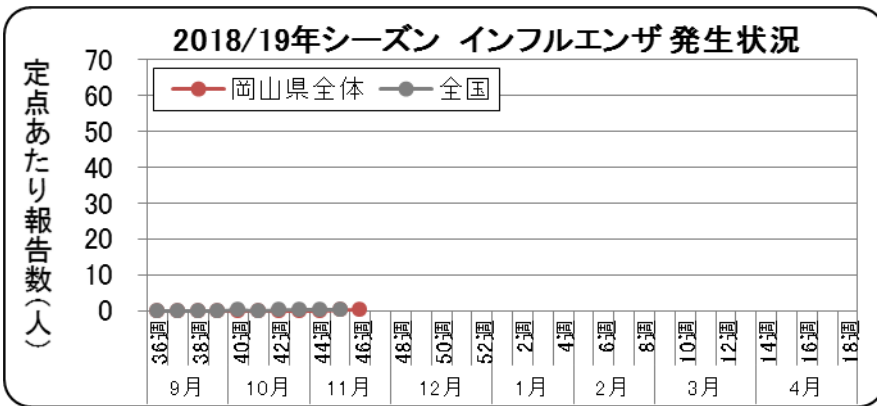
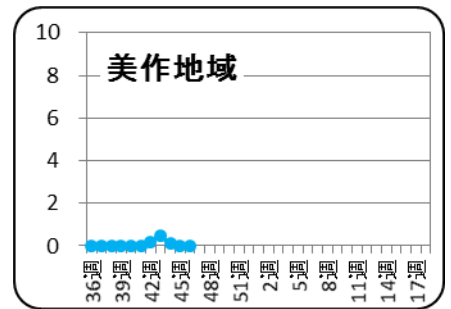
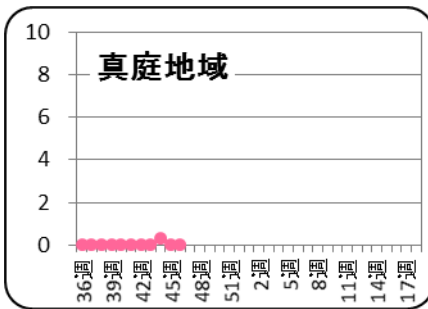
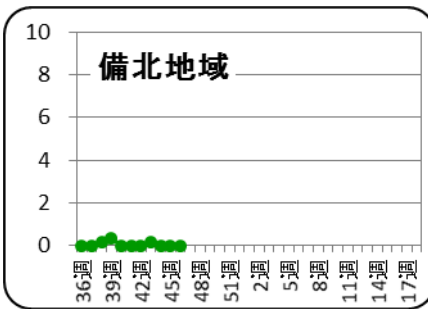
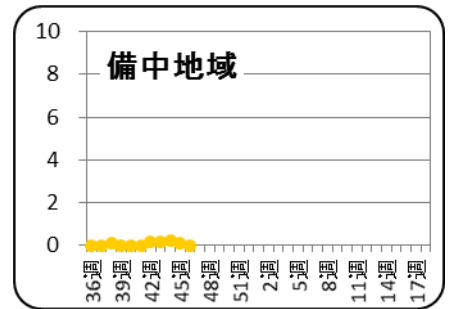
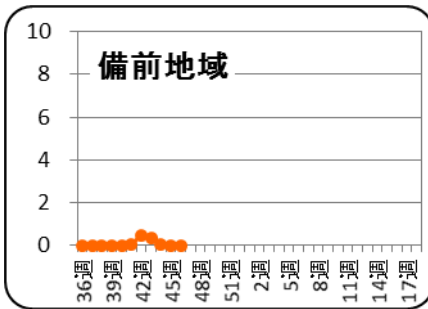
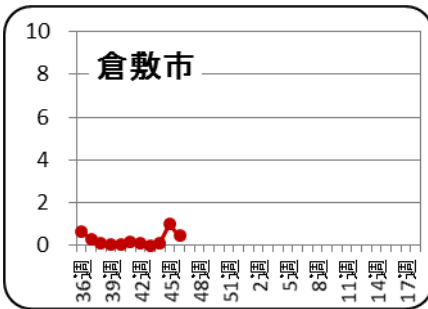
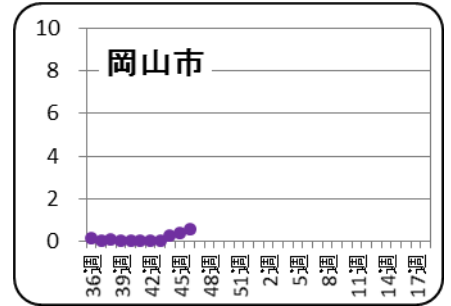
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0 < 10 未満	0

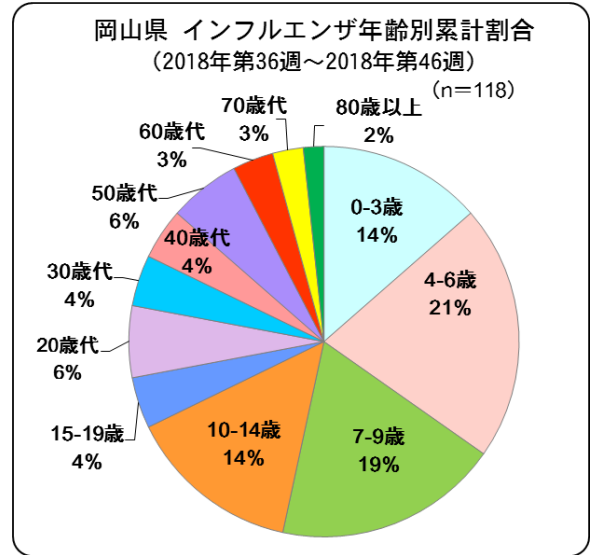


全国集計第45週（11/5～11/11）速報値によると、全国の定点あたり報告数は0.35人となり、前週（0.21人）からわずかに増加しました。都道府県別では、三重県（1.43人）、沖縄県（1.36人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

[インフルエンザの発生状況について](#)
(厚生労働省)

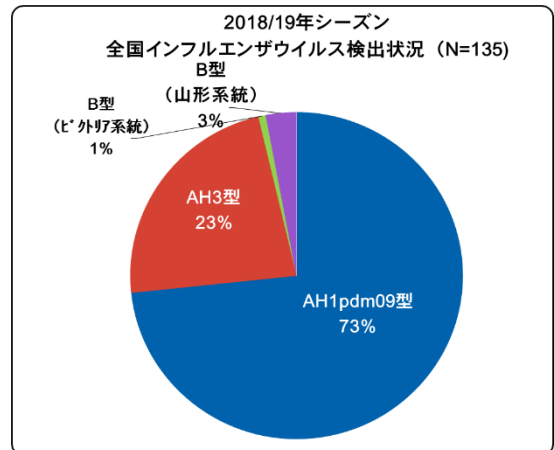
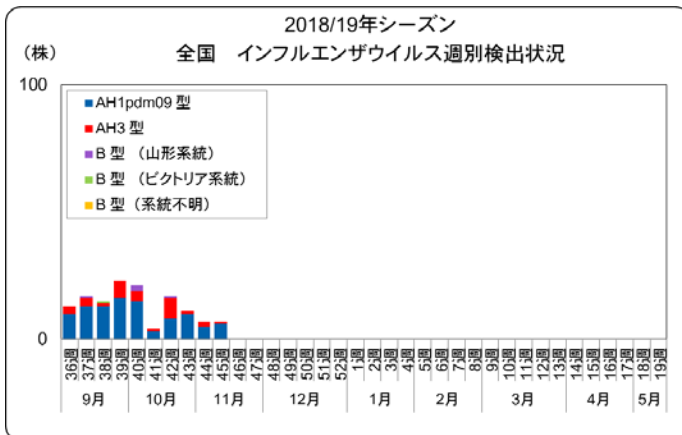
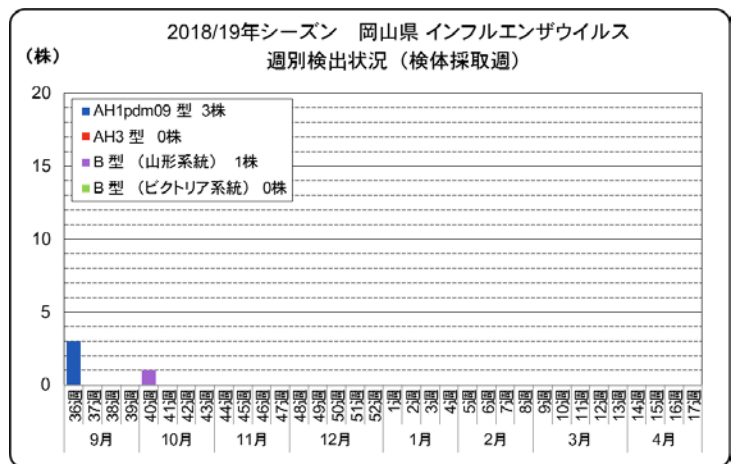
2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別類型割合は、4-6歳21%、7-9歳19%、0-3歳および10-14歳14%の順で高くなっています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

第46週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは4株で、その内訳は、AH1pdm09型3株、B型（山形系統）1株となっています。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が31株、AH1pdm09型が99株、B型が5株〔山形系統4株・ビクトリア系統1株〕となっています(11月19日現在)。

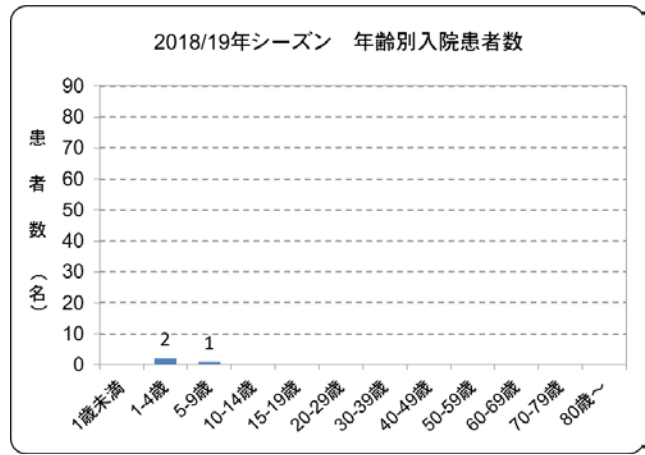
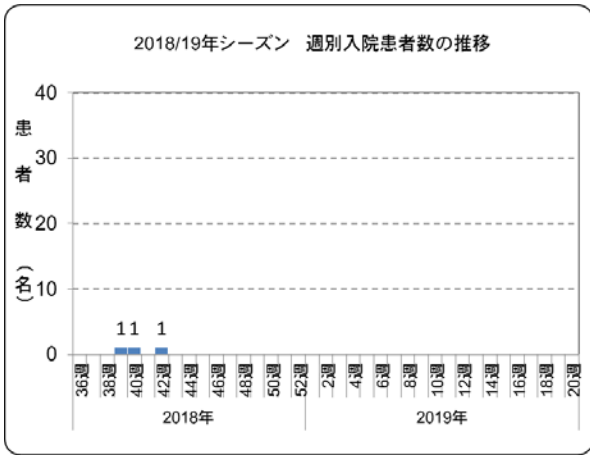
[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、2施設でありました(岡山市および倉敷市)。

5. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点5医療機関による報告)

インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



【2018年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計
入院患者数		2	1										3
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*													
頭部MRI検査(予定含)*													
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず		2	1										3

* 重複あり

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、2週間程度かかります。

本格的な流行がはじまる 12月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。

定期予防接種の対象者は、積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方も、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。
- 13歳以上の方は、1回接種を原則としています。

定期予防接種対象者

- * 65歳以上の方
- * 60~64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障がいがあり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)により免疫機能に障がいがあり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

◎定期予防接種については、接種できる期間が市町村によって異なりますので、お住まいの市町村担当課にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2018年 46週(定点把握)

(2018/11/12～2018/11/18)

2018年11月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	19	0.23	12	0.55	7	0.44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	14	0.26	4	0.29	7	0.64	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	7	0.13	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	116	2.15	39	2.79	29	2.64	34	3.40	1	0.14	1	0.25	3	1.50	9	1.50
感染性胃腸炎	294	5.44	88	6.29	61	5.55	54	5.40	17	2.43	36	9.00	15	7.50	23	3.83
水痘	24	0.44	13	0.93	4	0.36	4	0.40	-	-	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	39	0.72	6	0.43	8	0.73	1	0.10	2	0.29	22	5.50	-	-	-	-
伝染性紅斑	6	0.11	1	0.07	3	0.27	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	27	0.50	19	1.36	5	0.45	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	8	0.15	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	2	1.00	2	0.33
流行性耳下腺炎	6	0.11	1	0.07	3	0.27	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	17	1.42	3	0.60	10	2.50	4	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 46週(発生レベル設定疾患)

(2018/11/12~2018/11/18)

2018年11月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	19	0.23	12	0.55	7	0.44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	0.13	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	116	2.15	39	2.79	29	2.64	34	3.40	1	0.14	1	0.25	3	1.50	9	1.50
感染性胃腸炎	294	5.44	88	6.29	61	5.55	54	5.40	17	2.43	36	9.00	15	7.50	23	3.83
水痘	24	0.44	13	0.93	4	0.36	4	0.40	-	-	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	39	0.72	6	0.43	8	0.73	1	0.10	2	0.29	22	5.50	-	-	-	-
伝染性紅斑	6	0.11	1	0.07	3	0.27	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	8	0.15	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	2	1.00	2	0.33
流行性耳下腺炎	6	0.11	1	0.07	3	0.27	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	17	1.42	3	0.60	10	2.50	4	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2018年 第46週 2018/11/12～2018/11/18)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	19	-	-	1	-	-	2	-	1	1	4	4	2	2	-	1	-	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	14	2	2	7	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	7	-	1	2	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	116	-	1	2	10	11	14	14	17	16	4	8	13	1	5
感染性胃腸炎	294	5	23	31	39	25	24	28	23	14	9	5	23	10	35
水痘	24	1	1	3	-	3	3	2	3	2	-	3	3	-	-
手足口病	39	-	2	13	16	-	2	1	2	-	-	1	2	-	-
伝染性紅斑	6	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	1	-	2
突発性発疹	27	-	5	18	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	8	-	-	1	3	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	-	-	1	-	-	2	1	-	-	-	-	2	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	17	-	-	1	-	-	-	1	1	-	1	2	2	-	4	2	1	1	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

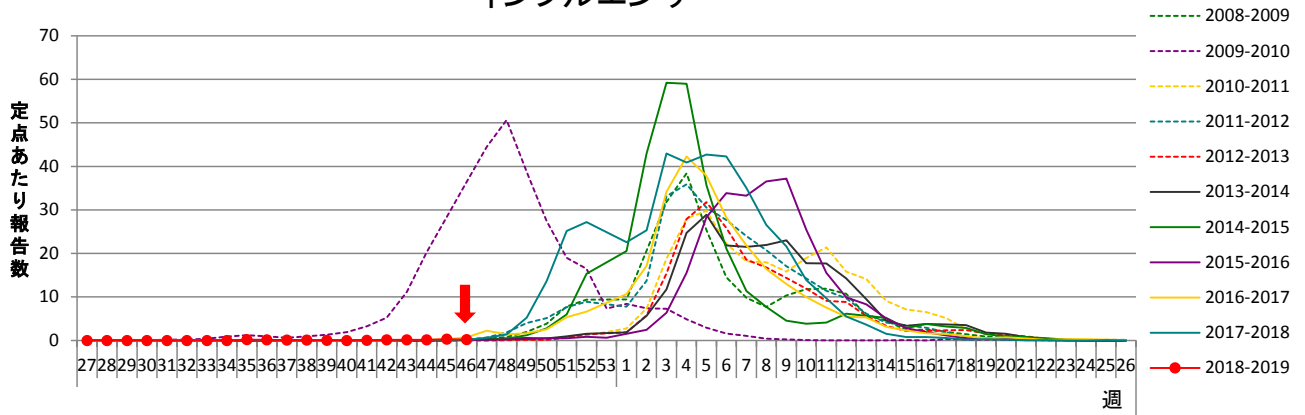
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

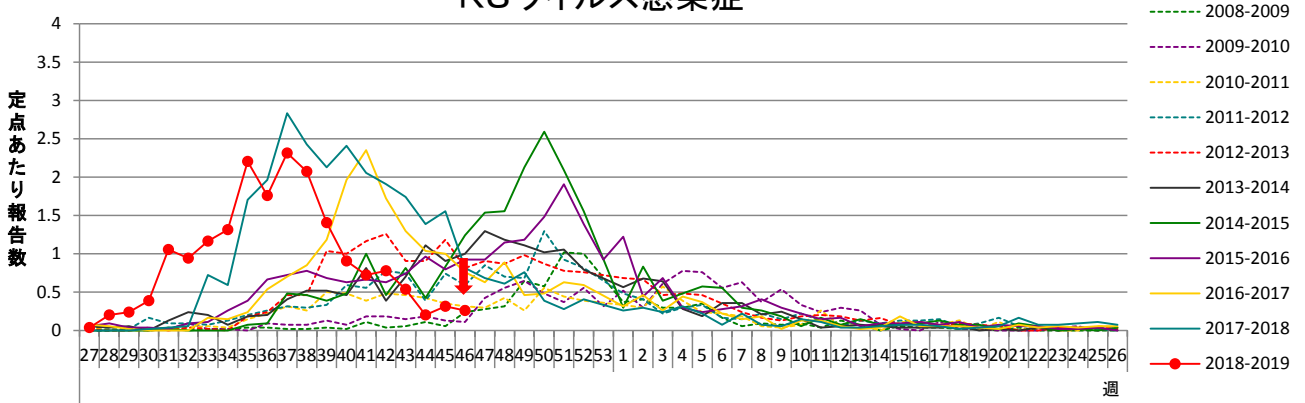
2018年 46週

分類	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	7	293	370	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	-	16	3	腸管出血性大腸菌感染症	1	67	70
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	2	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	5	7
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	71	30
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	15	22	ウイルス性肝炎	-	5	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	22
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	3	-	急性脳炎	-	6	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	3	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	13	9	後天性免疫不全症候群	-	15	22
ジアルジア症		-	1	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	40	36	水痘(入院例に限る。)	-	3	6	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		1	145	172	播種性クリプトコックス症	-	2	1	破傷風	-	2	-
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	7	百日咳	2	154	-
風しん		1	16	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

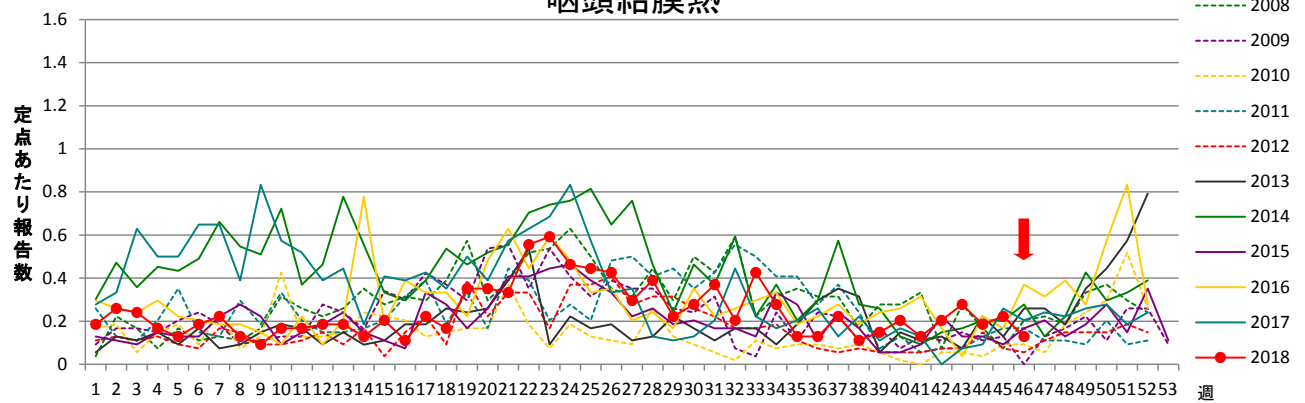
インフルエンザ



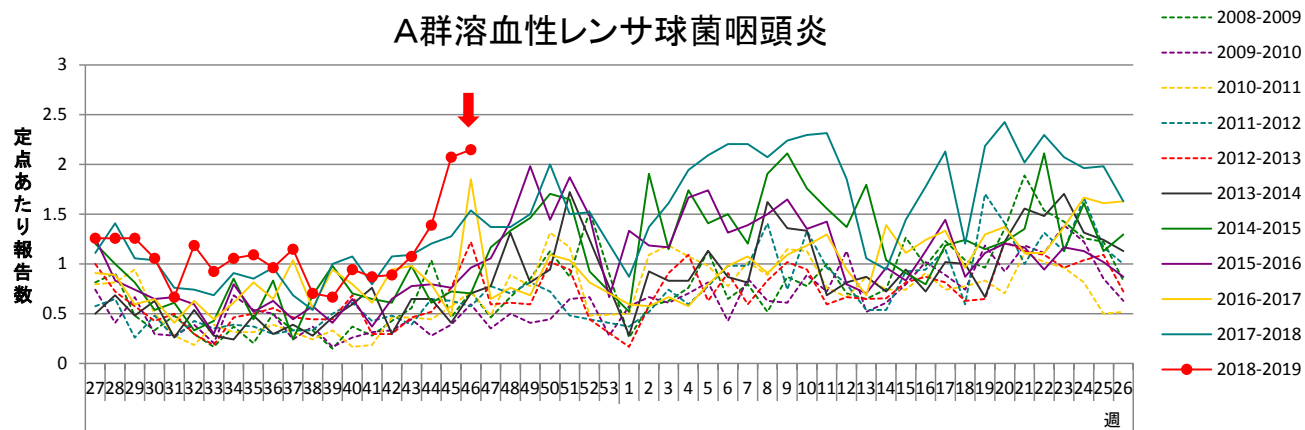
RSウイルス感染症



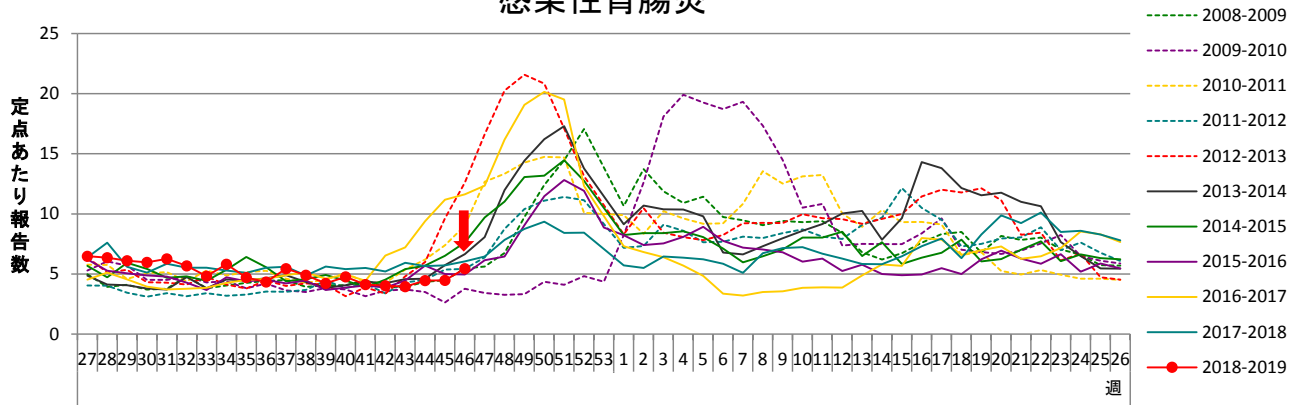
咽頭結膜熱



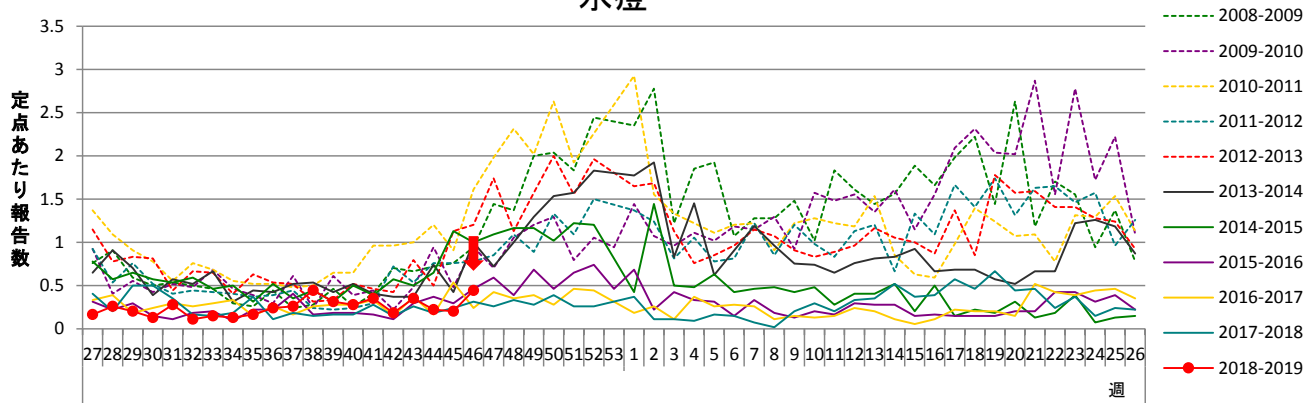
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



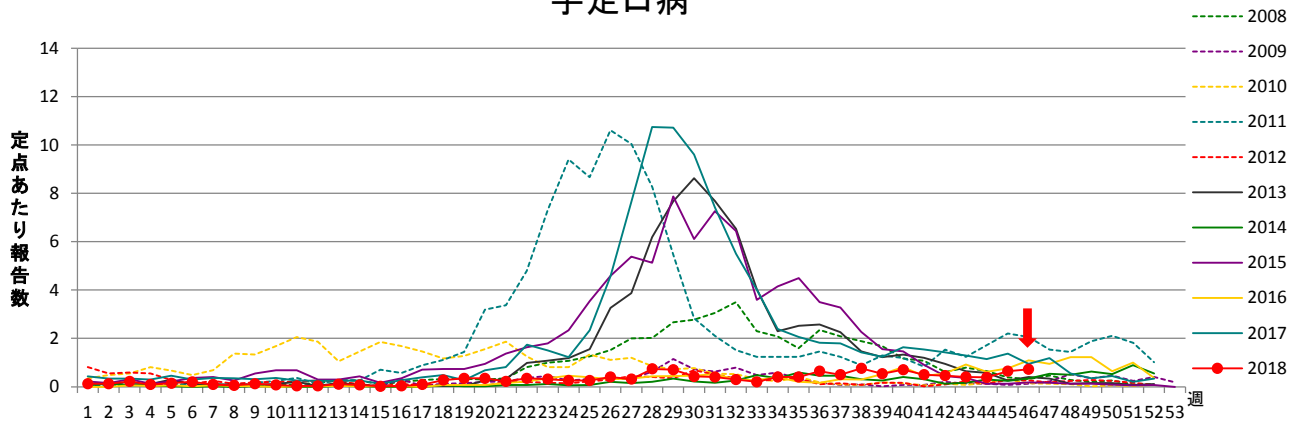
感染性胃腸炎



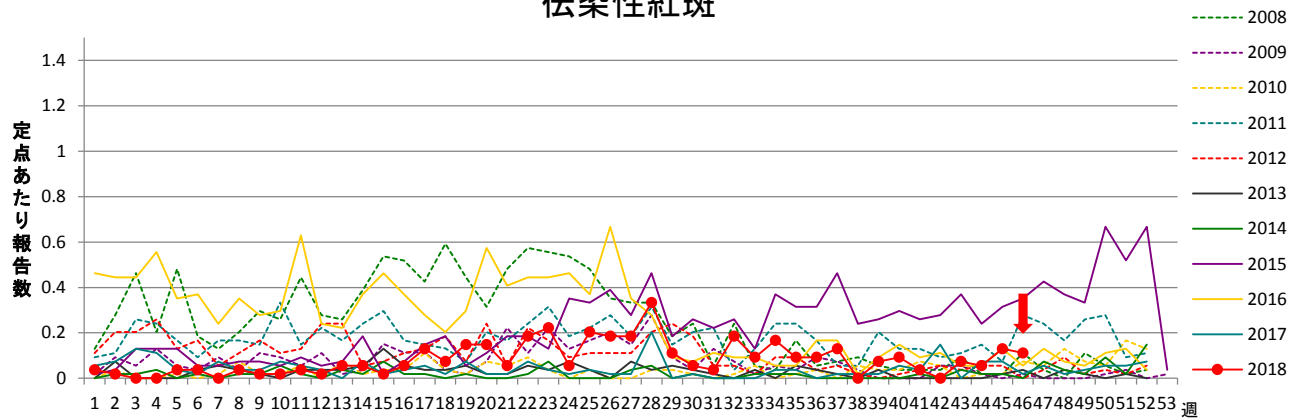
水痘



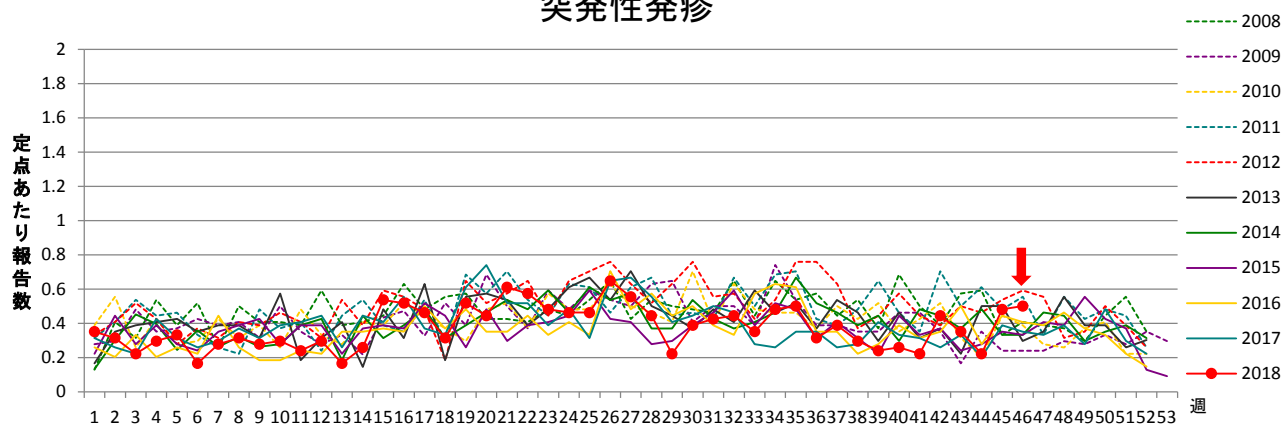
手足口病



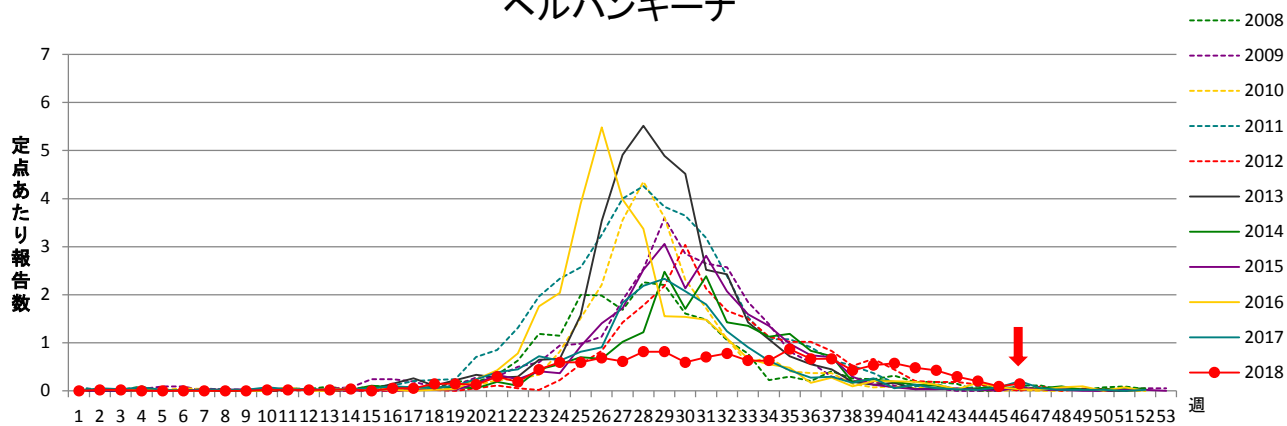
伝染性紅斑



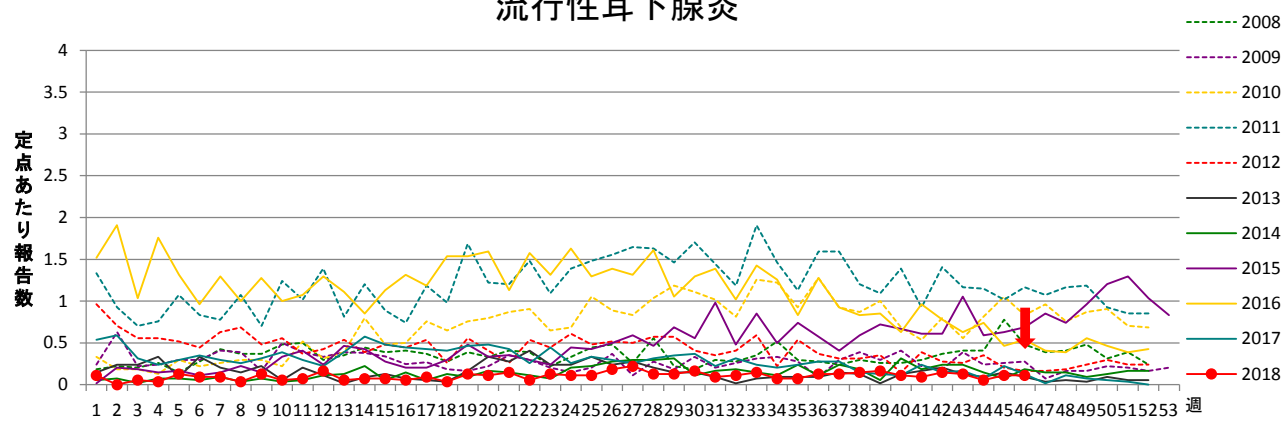
突発性発疹



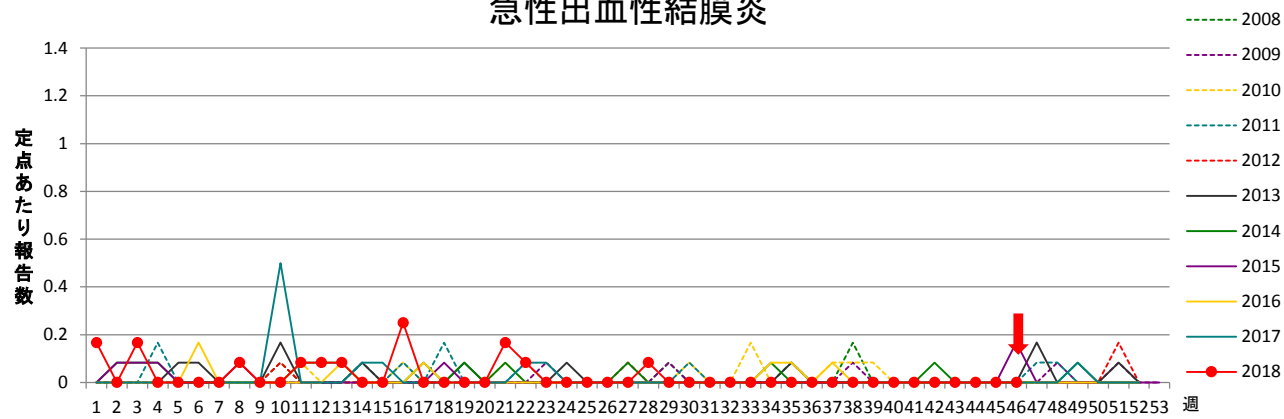
ヘルパンギーナ



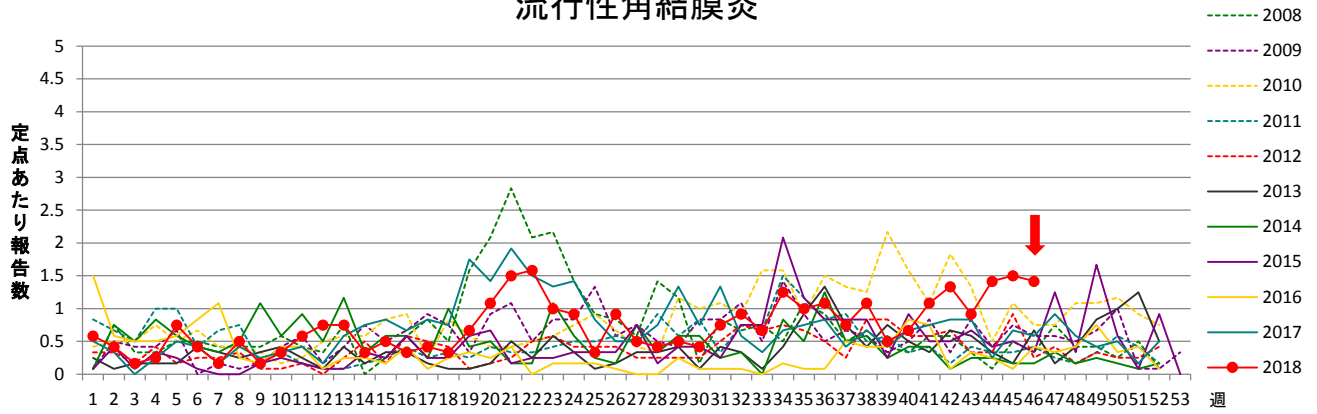
流行性耳下腺炎



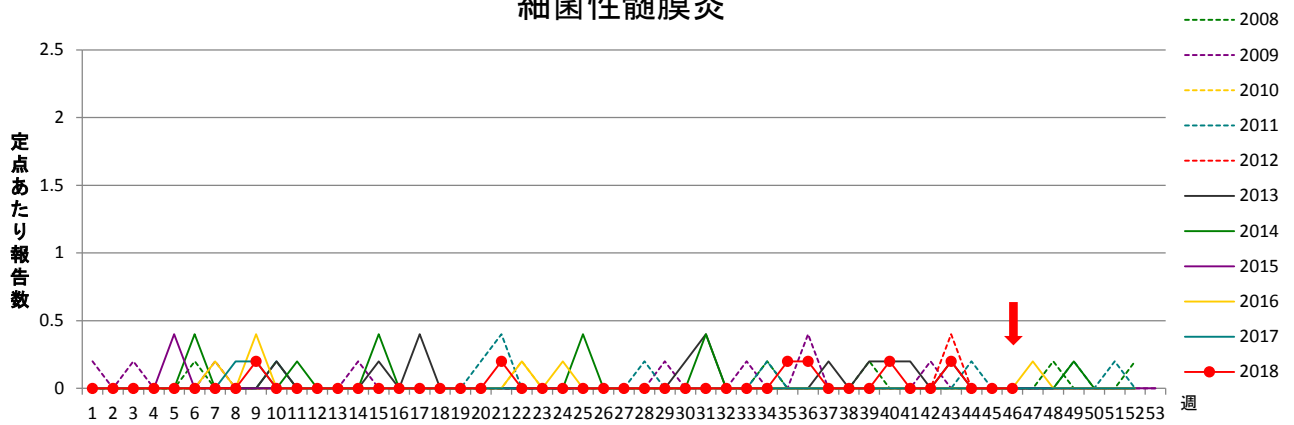
急性出血性結膜炎



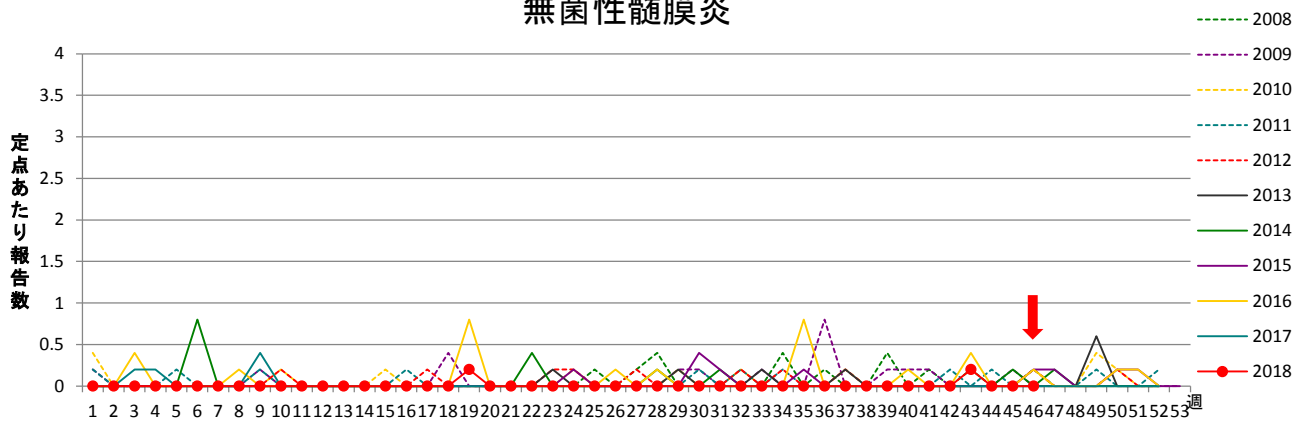
流行性角結膜炎



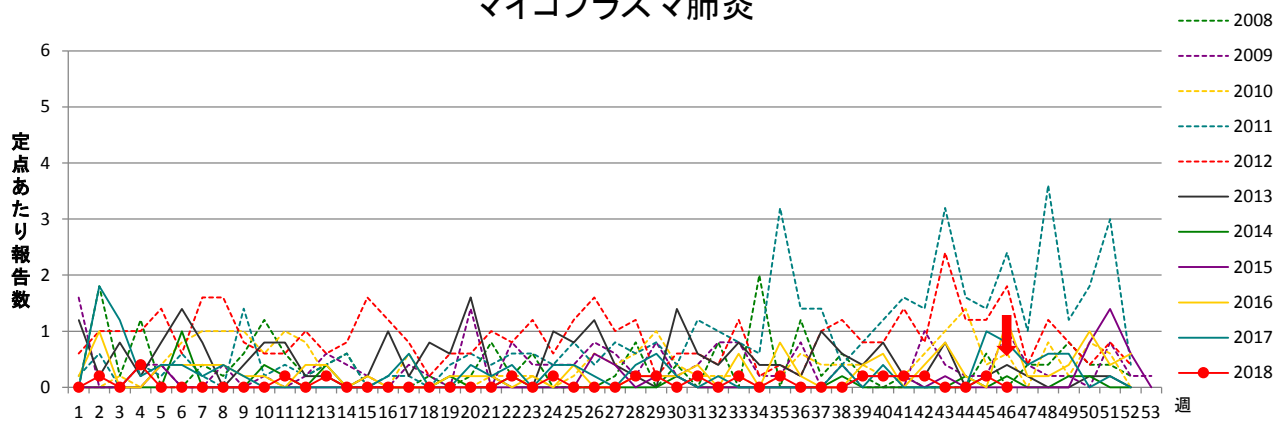
細菌性髄膜炎



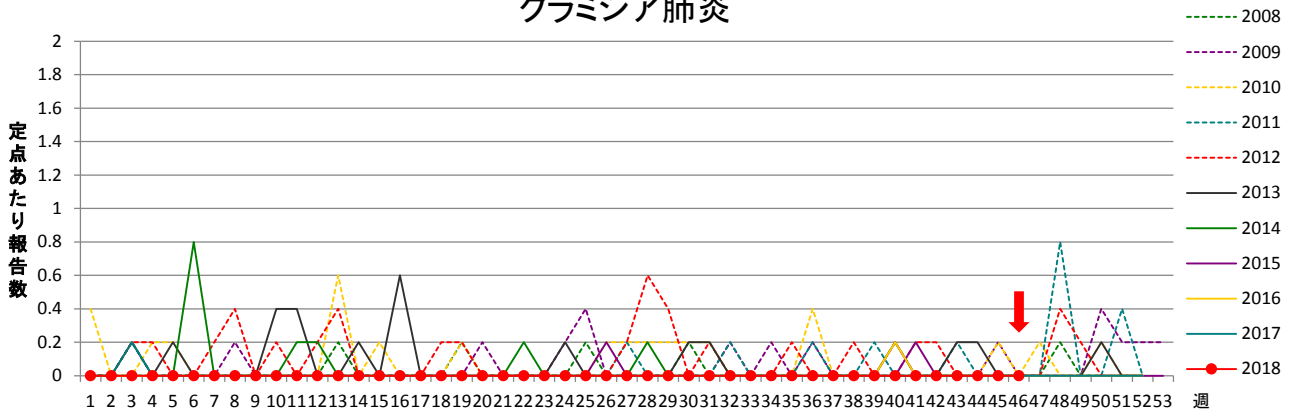
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

